

令和7年度 第1回かめおか霧の芸術祭実行委員会

日時 令和7年5月21日
午後1時～午後3時
場所 市民ホール

司会：事務局（文化芸術係長）

【開会あいさつ】 桂川顧問

（委員長）

まず、議題の1でございます。令和6年度事業報告及び決算報告につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局から事業報告】

（委員長）

それでは、ただいま説明がありました内容につきまして、皆様からのご意見、或いはご質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

（委員）

今回、緑化フェアでは、どのようなプランを計画しているのか。もしくはどのような感じで進んでいるのか、少し詳しくお聞かせいただきたいと思います。

（総合プロデューサー）

2つのフェーズがあります。1つは2市1町で、南丹市、京丹波町及び亀岡市が連携して企画を進めるものです。その中でアートに関する担当は私が進めています。そして、亀岡市内の緑化フェアに対するプロジェクトが2つ立ち上がっています。1つは、亀岡運動公園周辺の緑化の推進です。もう1つは駅北の休耕田となっている場所に係るアートプロジェクトを企画しています。特に駅北では市民農園やビオトープのほか、アートの企画を準備しています。そこにどのような形で市民が参加できるのか、また公園としてどのように機能させていくのかについて検討を重ねている段階です。また、亀岡から生まれてくる材料。特に今回は竹に注目しています。亀岡は全国的にも有名な竹の産地であり、竹細工のような竹材技術を持っている方も多いということも分かっています。そのような技術の継承もあります。それから現在、台湾の竹職人、それからアーティスト、大学関係者が亀岡駅に來られ現地を視察したうえで、モニユメンタルなものやワークショップなどを市民に公開していくプログラムを考えています。

（顧問）

全体としてメイン会場は2市1町に5ヶ所あります。その共通項は「環境・食農・芸術」です。特に駅北については今お話があったように、環境という意味での竹を見直し放置竹林を解消していくこと。また、今まであまり使われなかったものを何か魅力的なものに変えていくことで、竹だけでなく、萱とか藁とか、そういう農産物から出るような素材を活用した芸術、あとは流木を活用したような芸術などを考えています。また駅北の農地10ヘクタールには、農小屋をアップサイクルして作っていく。一つは市民農園の拠点として農小屋を10ヶ所ほど作るものです。田園の中に野外芸術のポイントとして入るような農小屋を自然素材やアップサイクルなど環境に配慮した内容で作ってもらうことを依頼しています。運動公園も造園家に全体的な花のデザインをお願いしており、その方の知り合いの芸術家を配置し、花の作品を作っていたら、花のメインガーデンについても依頼しています。そして、南丹市や京丹波町にも、地元芸術家に関わっていただくような取組を進めてもらうよう依頼しています。やはり三者で

連携し京都丹波エリアで進めるレガシーを作るきっかけづくりをこの緑化フェアでできないかということを考えています。まさに京都丹波みどりの里まつりというサブタイトルにある通り、里のまつりとしてアートがあったり、食農で言えば、マルシェがあったりということを繰り広げながら進めていく予定としています。

（委員）

ありがとうございます。先ほど顧問がおっしゃった文化芸術に関して、2市1町の連携ということで、私も南丹市から依頼を受けており、プロジェクトに参加しています。日頃から考えていることですが、自治体単位では難しいこともあります。広域自治体として連携することが大切であると思いますし、緑化フェアについても非常に意味があると思います。

（顧問）

まさにこの緑化フェアはそういうきっかけづくりになります。2市1町の連携をより強めていき、緑化フェアが終わった後も連携し、様々な取組が広がっていけばと考えております。

（委員長）

ありがとうございました。他の委員はいかがでしょうか。それでは議題1、令和6年度の事業報告及び決算報告につきまして、ご承認をいただける方は拍手をお願い申し上げます。

【拍手】

（委員長）

ありがとうございます。拍手多数ということで、原案の通り承認されました。それでは、議題2に移らせていただきます。令和7年度事業計画（案）及び予算（案）につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局・スタッフのアーティストから事業計画を説明】

（委員長）

それではただいまの説明につきまして、皆様からのご意見、或いはご質問等ございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

（委員）

様々な企業や団体とお話をする、かめおか霧の芸術祭について、非常に興味をお持ちになり、参加してみたいという展開になります。要は、色々な形で参加の切り口があるのではないかということです。そうすると、作家の方にもプラスになるのではと考えます。その辺りに関して、より力を入れていただければ有難いと思います。

（総合プロデューサー）

大変貴重なご意見、ご提案だったと思います。本当に単体ではやっていけないと思いました。特に様々な方と関係を作ることによって、我々も全く知らない業界や知らない知見を得ることができます。ようやく、農業と芸術が融合したような部分が見えてきました。その他、例えば福祉と芸術ならどうなるのか。或いはその観光と芸術だけでなく、教育と芸術ならどうなるのか。様々な業種の方と交流することによって、芸術の内容が変わっていくと思いますし、お金のことも当然あると思います。やはり幅を広く対応していきたいですし、できるだけ、業者の方と懇談から始めて、今後形に繋げていけばいいなと思いました。

（委員）

この令和7年度の事業計画案を見せていただいて、ある種ルーティンな感じに固まってきているというか。それを深めていくことも、当然必要なことだと思いますが。簡単に一年で変わることはない。長く続けることで、その深まりがどんどん深まり、新たな展開が出てくるこ

ともあると思います。一方で広がりを探索していくことも大切であると思います。ぜひよろしくお願いしたいと思います。

（総合プロデューサー）

実行委員会のメンバーで、城跡芸術展を担当してくれたんですけど、彼が大本さんに話を通してとてもよい関係を築いています。その彼が1つ、今回挙げているテーマとして福祉をテーマにして何かできないかなと。彼も個人的にそういうことに興味があって。みずのき美術館も大本のサポートがあって生まれたっていうことも聞いています。この福祉であったりとかアートであったりを1つのテーマとして、城跡芸術展の中で取り上げていくことはすごく意義があると思います。そういう意味で先ほど色々な業界の方の話がありましたが、この亀岡の特徴的なロケーションと、そのロケーションを運営されている大本教の関係性がとても重要だと思っています。その関係がなければ、成り立っていかないと思うので、その中の空間的良さ、そこにある理念や思想がやっぱりこれからすごく重要になってくるなと思っています

（委員）

私たちも参加させていただいて、すごく良い芸術祭に育ったなと思い喜んでいますが。ただ、芸術祭が一年を通して、行われているイベントであることや、城跡芸術展が霧の芸術祭の一部であるなど、関係性が私たち実行委員会の参加者はわかっているのですが、外部の方にどこまで伝わっているのか。まだまだ浸透していないような気がします。昨年、実行委員会として、アーカイブブックを作り続けることが大事であることは申し上げ、各美術館や図書館に送ることも重要であるというお話をさせていただきました。それはまた継続してほしいです。もう一つ、この城跡芸術展当初を振り返ると、最初は亀岡ゆかりの作家ということで、私たちも亀岡に住んでやっていたので、そういう形で立ち上がったのですが、その後は声掛けなどして「亀岡ゆかりのある作家」という縛りを取ってしまって、別に亀岡に縁がない方でも、この亀岡に来ていただいて、参加していただける形がいいのではということで、今は進んでいると思います。それも人数が負担になっていく中で、毎年じゃなくても、来年は休みという形で進めていくことも最近はあると思います。なぜそういう話をするかというと、内容はいろいろ広げたり、工夫したりしているのですが、外から見たら実際にはよくわからないです。どうすれば、霧の芸術祭に参加できるんですかとよく聞かれます。以前は推薦があったが、今はどうなっているんだろうと。なので、広報という意味も踏まえ、一部分は固定枠というか、今まで参加したメンバーの中で出品を募り、一部の枠、例えば年間5組はポスターなり、チラシを配り、入口を作る。そうして新陳代謝というか、マンネリ化せずに、新しい力も取り込みながら、ずっと継続できるような形をそろそろちゃんとデザインしないといけない。すごく良い形で続いてはいるんですけど、このままの形で良いのかというと、それはどうかはわかりませんが、その辺りの工夫を今回ディレクターを中心に、何か新しい方向性を打ち出していただけたいなと思います。

（総合プロデューサー）

今回のディレクターには、以前から城跡芸術展に関わってもらっていました。内容に関して、例えば一部公募するなど、新陳代謝を高めていきたいなと考えております。

（委員）

先ほど各担当の皆様からお話していただき、それぞれ工夫をされて考えており、よくわかりました。そこでちょっと違う観点ですね。予算の総額は多分同じで、組み立てができています。ということは、当然そこに組み替えが行われて、その濃淡、メリハリがあると思います。何か新しくやりますという方は、ご担当も非常に言いやすい。ただ、新しいものを生み出して、より良いものを作るためには、場合によっては捨てなくちゃならない、縮小しなくちゃならないことも当然あるかなと思います。その辺も含めて、事務局からご説明いただけたらなと思います。項目ごとの数字は読み上げていただいたので分かりました。事務局の思いみたいなことをお聞かせいただければなと思います。

(事務局)

全体の予算の話ですが、この予算を立てるに当たりまして、本当に長い間、皆とディスカッションを重ね、それぞれの企画を考えていただき、取捨選択するという形で作り上げました。つまり、事務局がというより、本年度は何を選択し進めていくのかということを考えてきた結果と整理になります。おっしゃる通り、予算については、議会で承認をいただいている金額が同額ですので、毎年ずっともうこの金額で進めています。その中で年々関わっていただく人が増えてきています。まず、その人達に活躍いただくためには、そのための時間と、色々な企画を練っていただく経費が発生し、大変苦慮しているというのが現状です。濃淡で言いますと、やはり一番市民に見ていただいて、また影響を受けていただけるのが城跡芸術展ということになりますので、その金額が、やはり一番大きなウエイトを占めております。以上です。

(総合プロデューサー)

少し補足ですが、城跡芸術展のときにボランティアの方々がほぼ倍増していくんですね。ボランティアの方には、モノを運んでいただいたり、人を誘導していただいたりしてもらっています。ただそのことが、ボランティアの方々にとっては人生の何か一つの意義のように思ってくださいる方もおられます。そのような方々に、どのような形でお返しができるのかを考えると、例えば一緒に畑を耕しながら芸術の話をしましょうとか、或いは、勉強会をしましょうとかいうことを積み重ねてきました。そして、ボランティアの方々がいなければ多分これ成り立たないと感じました。また城跡芸術展ではワークショップやトークイベントなどを行っていただいた作家への支払いもあります。そのような背景もあり、このような予算配分になっていると思います。

(委員)

これに関して、正直私は参加費は要らないです。ボランティアの気持ちでやりたいし、前向きな気持ちで参加したいと思ってやってきています。そういう意味で、お金の問題と言われましたけども、なかなかお金が出ていくばかりでなかなか生み出すことができない。やはり、作ったものを販売する。野菜でもそうですが、付加価値をつけて販売する。購買する方も、そういう意味を知って、それが口コミなどを通して広がっていく。そういう流れが大事だと思います。

(総合プロデューサー)

お金も一つの作品の評価ですから、すごく重要だと思うんですね。亀岡が芸術に使うお金ってどのくらいなのか、よくわからないですが、霧の芸術祭を行いながら僕が考えたことは、アートを通してお金を稼ぐ方法です。どういう方法があるか、これは常日頃考えています。自分にも関係することですから。もう1つはお金じゃないものがありますよね。今だったら米で、一年分もらえるのであれば、10万円もらうより嬉しいかもしれない。おいしい野菜を年間定期的にもらえるなら、その方が嬉しいかもしれない。今までアーティストに払っていたお金は農家に払って、農家から買い取ったものをアーティストに分配するっていうような方法もあるのかなと思ったりしたんですね。それと労力です。体力を持っている場合、例えば、屋根瓦を直してくれとか壁塗りやってくれとか、体力と何かを交換していくような形のことができないか。亀岡の芸術祭は、金払いは良くないけれども、物をたくさんもらえるし、家を建ててもらった人もいますよとか。土地すごく安く借りれたよとか。お金に代わる何かポテンシャルが亀岡にはあるように思います。その点も含めて、トータルで分配できるような方法を考えたいなと思っています。というのも、お金は絶対必要になってくる。8年も続けてきたら、若手と言った20代の連中が30代、30代が40代になっているんですよ。そうすると、子育てや何らで絶対現金必要になってきますから。ぜひ、委員のネットワークを活かし、ご紹介いただきながらやっていきたいなと思っています。よろしくお願いします。

(委員長)

少し話が広がってきて、それがこの委員会のいいところではあるんですけども、ひとまず

議題2、令和7年度の事業計画（案）と予算（案）につきまして、ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

【拍手】

拍手多数ということで、原案の通り承認をいただいたものとさせていただきたいと思います。それでは時間もあまりないですけど、一言ずつご感想でも結構です。頂戴できればと思います。

（副委員長）

本年度から連合会会長をさせていただくにあたり、本会の副委員長となります。一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。私はあまり文化芸術には縁のない人間でございまして、全く違う分野に足を踏み入れたという感覚を持っております。本日の事業報告なり決算報告を聞かせていただきました。色々な分野で活動がされているということを初めて認識し、改めて亀岡の文化芸術に携わっている皆さん方のお知恵やご努力に、敬意を表します。これから亀岡はまだまだ発展するまちでもあります。今後とも私自身も勉強させてもらいながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

（委員）

私は委員となり6年目になりますが、あまり霧の芸術祭に貢献できてないことを申し訳なく思っております。城跡芸術展には何度か行かせて頂きましたが、私も芸術には造詣が深くないです。一般市民の方は、なかなか芸術の奥までわからない。この作品が何を意味しているか、なかなか作品をぱっと見たときに、難しいので、つついパスしてしまう。そこで、例えば国立博物館なら有料で説明のイヤホンとかありますよね。そこまではなかなか難しいかもしれませんが、作家が何か音声で作品の意味や捉え方を説明してくれるようなものがあればよいかもしれない。また、8年目ということですが、どこかの時点で、これまでの事業の総括していただければ、市民もわかりやすいかと思います。初めの頃は霧の芸術祭×X（エックス）というのはなかったと思います。なかなか霧の芸術祭は分かりにくいということで予算について、いろいろな意見があったと思いますが、この×X（エックス）が付いたことによって凄くわかりやすくなったと思います。とにかくわかりやすい芸術を進めていってもらえればと思います。

（委員）

本校は昨年度の2月に開かれたアトリエで美術部の活動として、いろいろなテーマで生徒らが展示をしてくれました。私自身も芸術はなかなかわかりませんが、何か刺激をもらっているように思います。令和7年度も引き続きどうぞよろしくお願い致します。

（委員）

本校もスタッフから助言をいただき進めていることもあります。また生徒、教職員ともども展覧会に足を運ぶだけでなく、亀岡市をどのようにより良いまちにしていけるか、日々考えているところです。令和7年度も引き続きどうぞよろしくお願い致します。

（委員）

我々、大本は丹波亀山城跡をお預かりしております。3年前に城跡芸術展の会場としてお使いいただき、今年度で4回目ということになります。回を重ねるごとに質が上がり、施設や神苑、城跡の良さを引き出してくれていると気づき始めています。芸術作品と神苑が非常にマッチして素晴らしい空間を作り出して頂いております。非常に感謝しているところです。今後は亀岡市民だけでなく、他市他県の方に芸術展を見て頂きたいと思うところです。今後ともよろしくお願い致します。

（委員）

色々工夫をされておりますので、発信をどうするかがテーマの一つだと思います。我々も観

光の案内をする際、保津川下りの説明はほとんど要らないです。保津川下りですということ、皆分かってくれます。一方で、認知度が低い場合、分かる人は分かるが、分からない人にはなるべく短いフレーズに言語化するなど、工夫しないといけない。今度、霧の芸術祭を外に発信していくとき、どの層に発信するかによって発信の内容が変わってくるのだろうと。それこそ、芸術は苦手だという人に発信するには、かなり平たく言語化しないといけないと思います。お手伝いできることがあれば、支援させていただければと思います。よろしくお願いします。

(委員)

かめおか霧の芸術祭×X(エックス)ということで、我々は環境という分野で携わらせて頂きました。霧芸はわかりにくいという話がありましたが、環境についてはデザインを活かし分かりやすく発信ができたように思います。HOZUBAG したり、そのもの自体が環境への取組を発信する材料となっております。廃棄物の処理も費用が掛かります。ただ廃棄物とせず、付加価値をつけることで経済価値を形に生むなど可能性も非常にあります。今後もアート、芸術の力を生かしながら、真のマインドチェンジを進めながら「モノ自身の価値を変える」ような取組についても、考えているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員)

課題を解決する上でのアプローチの仕方で、芸術の力があるという認識を持っておりますし、芸術祭はお祭りの一面もありますので、わくわくするような面も併せて継続して頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員)

私は比較的当初から関わっております。経営者ですので、どのようにして収益を上げるかを常に考えています。先ほど、マネタイズの話が出ていましたが、文化芸術については、マネタイズが本当に難しい。そもそも利益構造を生む形になっていないからです。付加価値を誰かがつけて一気に上げることもあるかもしれない。イベントの経費を収益だけで賄うことを考えると非常に難しい。参加費が市場に合っているかなど、きめ細やかな設計を行わないと黒字化は至難の業であります。企業では、デザインが非常に重要で、どのように消費者に見せるか、どのように価値を伝えるか、これがものすごく重要です。この見せ方で消費者が買うか買わないか判断するほどです。おいしいのは当たり前で、どういうパッケージで、どういうストーリーで売るか。それで消費者が判断する。その消費者が価格を判断する。そういう世界なので、なかなか難しいです。ただアートツーリズムというものもあって、草刈り一つでツーリズムができます。そんな取組も含めて、今後も知恵を出し合いながら、進めていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員長)

皆さんからのご意見をいただきましたので、また今後ともそのご意見を参考に進めていけるよう努めて参りたいと思います。それでは最後に当たりまして、総合プロデューサーから閉会のご挨拶をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(総合プロデューサー)

年々、この実行委員会の密度が濃くなっているような気がしています。皆様からのご意見は、有難いですし、まだまだ気づけていないことに気づかされますので、これからやろうという意欲も湧いています。8年経って、若手もますます増えておりますし、彼らは亀岡に何を求めているのか様々だと思いますが、亀岡に住もうということは、亀岡を買うということなので、何を魅力に買ったのかわかりませんが、これは凄いことだと思います。もうすでに20名以上は移住していますし、南丹市や京丹波町にも移住を進めている人も多い。これは来年度に開催される緑化フェアの種が蒔かれているようなものです。それをどう繋ぎ合わせて一つのムーブメントにするかが来年度の仕事になるものと思います。そういう意味では、霧の芸術祭は第一ステージを終えて、次のステージに進むものだと思います。何より私はこの実行委員会の雰囲気

好きで、怖そうな人もいて緊張感もありますが、後ろ向きな考えの人がいないです。これからどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（司会）

皆さまにおかれましては、長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。今後も、身近にある様々なアートを通して、市民の皆さんが地元亀岡の魅力や、この地域にある資源の素晴らしさに気づき、毎日を豊かに楽しく暮らしていただけることができるよう「かめおか霧の芸術祭」の事業を進めてまいりたいと思います。本日は、誠にありがとうございました。